

## ツグミの部分白化個体の観察とその連年飛来例

田代 道彌・登坂 克男

Michiya TASHIRO & Katuo TOSAKA:  
Notes on Albinistic Dusky Thrush,  
*Turdus naumanni* in Hadano City

### はじめに

ツグミ *Turdus naumanni* の部分白化個体を神奈川県秦野市堀西626-18 登坂克男住宅庭内と隣接地で連年観察し、この個体の白化の部位について、やや詳しく見ることができた。観察期間は1990年1月より1992年11月の4回の冬と春におよび、部分白化という著しい標徴によって、この個体が連続して同じ場所に飛来することを知り得た。そこでその概況を以下に報告する。

### 白化部位と白化の状態

観察によって知り得た白化の状態を各部について述べると、頭部・顔・背の白化は、基本型と較べると著しく印象を相違させて強烈であった。主として頭部より顔・背・胸・脇・腹におよび、翼や尾羽にかけてはほとんど白化は及んでいないように認められた。

#### 〔頭部・顔〕

顔にわずかに黒褐色の斑紋を残すが、頭央はほとんど白化していて、ほぼ純白に近い中にわずかに黒褐色の差毛が散在する程度。しかし後頭部に移行するにつれて黒褐色の羽毛が再び多くなる。

顔は眉斑の白色部を残すが、クリーム色のさした印象は消えて純白に近い。頬の暗褐色部は眼先を一部残すのみで、耳羽を中心に大部分白化し、その下縁のみが横に直線状に残るので黒色の腮斑のように見える。腮より喉にかけて、基本型は各羽の先端が黒色でそのため不連続な縦斑を形成するところを、この個体はこの黒色斑がほとんど白化している。

#### 〔背面〕

前頸より肩にかけて、基本型はそれぞれの羽毛の1枚づつが中央黒色で縁に幅の広い赤さび色をもつのに、

この個体は黒色部分のみを残し、赤さび色の部分はすべて白化する。

#### 〔胸・脇〕

基本型は中央黒色で縁が白い羽毛で覆われる。腹や脇にかけても直線状にこの羽毛が続くので縦斑状になる。この個体はこれらの部分に全く黒色を失った白毛が混在する。そのため胸部は不規則なまだらになり、さらに腹や脇にも縦斑が形成されず、全体白地にまばらな黒斑が点在するに過ぎない。

### 飛来の状況と考察

筆者の1人登坂が、この白化個体の飛来を自宅の庭で観察したのは1990年1月中旬で、それ以降の観察例は表1の通りである。なおこの観察には登坂の家族(主婦洋子・学生泰浩・典子)も加わっているので、飛来しない日のチェックは補強される部分があると思われる。

このように冬鳥であるツグミが、毎年同じ場所に飛来越冬することが、部分白化による個体識別に立脚して可能になった点は興味深い。この個体も厳寒期にはこの場所では観察されていないので、さらに南方へ移動していることが推測される。各地からの観察例が追加されることを期待したく、白化部分の記載をやや詳しく述べたのもそのためである。

鳥類標識事業の中で、標識鳥の回収内容はつぎの3つに分けられている。1)半年以内に同一個体が同一の場所で回収される例(Repeat)。2)半年以上の後に回収される例(Return)。3)5km以上へ離れた場所で回収される例(Recovery)。そしてこの部分白化個体は1)2)にわたっていることになり、3)が観察例として期待されるのである。



図1. 秦野市堀西に飛来したツグミの部分白化例。  
(4, II. 1991 登坂撮影)  
1:顔, 2:頭部, 3:背面, 4:胸・脇

表1. 同一地におけるツグミ白化個体の観察例

	年	出現日と天候
1)	1990年	1月14日頃より20日頃まで、及びその月末まで、3回にわたり観察
2)	1991年	2月 3日(晴)および4日(晴)
3)		3月 4日(晴)
4)		3月28日(雨)
5)		3月30日(雨)および31日(小雨)
6)		4月 1日(曇)
7)		4月 3日(晴)および4日(晴)
8)		4月13日(小雨)および14日(曇雨)
9)		1991年
10)	1992年	2月26日(晴)A.M.7:05
11)		4月 4日(晴)A.M.6:25
12)		4月 8日(曇)A.M.6:30~40
13)		4月11日(曇)A.M.6:40~11:45
14)		4月12日(曇)P.M.4:40
15)		4月13日(晴)A.M.6:30~P.M.5:30
16)		4月17日(晴)A.M.6:15~P.M.6:20
17)		4月20日(晴)A.M.5:30
18)		
19)	11月13日(晴)A.M.6:45	
20)	11月18日(晴)A.M.6:35	

#### 摘 要

*Turdus naumanni* の部分白化個体が神奈川県秦野市堀西に飛来している。同一場所で表1のように連年観察されていることは珍しい。白化現象によって鳥類標識調査の Repeat・Return と同じ知識がもたらされたことになる。

この個体は厳寒期には姿を見られなくなるので、さらに南下していることが推定される。また神奈川県以北の渡りのルートも、観察例が期待できるように思われる。そのため写真と共に白化部分の観察をやや詳しく述べた。

(田代道彌：箱根強羅公園，登坂克男：神奈川県立自然保護センター)